



平成28年度 第3回 新宿区自転車等駐輪対策協議会

第2回協議会での主な意見等とそれに対する対応等

■第2回_資料2_新宿区内での自転車等に関する課題の整理についての主な意見

第2回協議会での主な意見等	意見等に対する対応等
課題に関すること	
アンケート調査結果からの課題、それ以外からの課題、それぞれで整理し、それら全体を踏まえ取組がまとめられると良いのではないか。	ご意見のとおり、それぞれの課題を整理しなおし、「新宿区の特性」「社会情勢の変化」「通行」「駐輪」「適正利用」の視点で全体をまとめた。
集合住宅の駐輪対策も明記できないか。	「止める」の施策の中で方向性を示していく他、「守る」や「伝える」の取組の中でも対策。
課題に対する取組の方向性に関すること	
通行の課題の取組で、「歩行者に配慮した整備手法」とあるが、「歩行者やバスなど、他の交通手法に配慮した整備手法」としても良いのではないか。	「走る」の課題に対する取組の方向性で対応。
自転車未利用者に対しても自転車施策の取組の重要性や役割について伝えられないか。「伝える」で、自転車施策を取り組むことによって、他の交通手段に対しても配慮していると言える、新宿区全体のための取組であると示せるのではないか。	「伝える」の施策の中で対応。

■第2回_資料3_目標像と4つの基本方針、施策体系図 についての主な意見

第2回協議会での主な意見等	意見等に対する対応等
東京オリンピック・パラリンピックといった視点も盛り込んでいく必要があるのではないか。外国からの訪問客も多いため、路面に分かりやすく示してあることが大事である。	「施策 E-2 自転車利用の利用方法がわかりやすいサインの導入」の中で記載。
歩行者を守ってほしいという意見が区民から出てくると思う。大人への交通安全教育をどうするかも考え、「守る」に対して力を入れていくべきではないか。	施策 F の中で、企業に対する安全教育の支援や、子育て世代・高齢世代に対する安全教育の拡充について記載。
自転車通行空間の整備について、歩行者や自転車、自動車などみんなが安全快適に通行できる環境を整える表現の方がよいのではないか。	「1. 自転車が走る環境を整える」の A の施策の枠組みの中で、誰もが安心して道路を通行できる空間づくりを目指す」と記載。
自転車シェアリングの拡充について、まちなかの自転車乗入れ台数の減少につながる、という表現は、自転車シェアリング自体の目的と違和感がある。	自転車シェアリングの記載の中で、「まちなかの自転車乗入れ台数の減少」という表現は削除。新たな移動手段の確保や地域・観光の活性化、まちの回遊性の向上などを目的に、自転車シェアリングの拡充を記載。
個人所有の自転車と自転車シェアリング用の自転車の使い分け、乗入れ台数の表現が混在しているため、整理し明確にするべきではないか。	
自転車利用の利用部分について、推進していく部分と、抑制していく部分があるように感じる。区として、自転車利用に対して、考えはあるのか。	区として、自転車利用は基本的に利用を「推進」する方向と考えており、適切に利用してもらえるように、取組を提案する。
現計画のどこを継承し、どこを見直したのかが分かりにくい。アンケート結果を踏まえた取組、これまでの計画で行ってきている部分の中でやるべき取組、社会情勢を踏まえた取組、などを整理できるとよい。	現計画の取組の記載の工夫と、課題のまとめ方の整理で、分かりやすく、まとめ直す。
自転車シェアリングの拡充については、拡充するだけでなく、適切な利用に向けた配置や活用などの書き方にしたい	施策を、相互乗り入れ可能な地域の拡大を目指した「関係機関と連携した広域相互利用の促進」と、ポートの配置やシェアサイクルの活用の考えを示した「利用者の拡大と利便性の向上」に分け記載。